

CONTENTS

TOPICS

- ① 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」リニューアル
- ② 女性研究者メンター制度 第5回メンター研修・第7回FD研究会「性の多様性をめぐる大学の課題ー研究・教育・生活の場としての安全を保障するためにー」
- ③ 職員研修「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」
- ④ NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第2回研究力向上セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」
- ⑤ NITech CAN 工学女子キャリア形成塾「知りたい！大学院進学後の学びとキャリア」
- ⑥ 『共に創る未来へII ～女子学生・女性研究者からのメッセージ～』発行

REPORT

第8回「女性が拓く工学の未来賞」優秀賞受賞
アヤル アヤド フセイン アル ズバイディ 研究員にインタビュー

TOPIC 1 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」リニューアル

2022年2月から3月に、女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」で、新たな動画3本を公開しました。本サイトは、2020年12月から2021年3月に公開し、好評を博した大学間連携イベントサイト「女性が拓く工学の未来」を、2021年度より名古屋工業大学単独主催のサイトとして改変したものです。

今回新たに公開したのは、電気・機械工学専攻 機械工学分野 田中由浩研究室紹介、情報工学専攻 知能情報分野 加藤昇平研究室紹介と、社会工学系プログラム 建築・デザイン分野で学ぶ大学院生3名による分野紹介です。

田中研究室の動画では、田中由浩教授が触覚をテーマに選んだ背景や、触覚研究の持つ可能性についてお話しされた後、学部4年生の伊藤万由子さんが取り組む遠隔コミュニケーションでの触覚の伝送技術の研究、湯川光特任助教が取り組む複数人の触覚を融合する技術の研究が紹介されています。

加藤研究室の動画では、学部4年生の杉浦順香さんがナビゲーターとなって、加藤教授や研究室の仲間にインタビューをし、豊かな未来社会を実現するためのAIとロボット技術の研究紹介をするとともに、研究室のメンバーが情報工学を志した動機や、普段感じている研究室の魅力について掘り下げました。

建築・デザイン分野の紹介動画では、意匠設計、構造分野の研究を行う大学院生伊藤あづみさん、井上玉貴さん、河内遙さんが、学生の視点から建築・デザイン分野での学びや学生生活について紹介した後、須藤美音准教授にインタビューをして、建築環境研究の内容と女子中高生へのメッセージをお話いただきました。

本サイトは、女子中高生を中心に工学部での学びやその魅力、将来のどのような職や研究につながっていくのかを具体的に伝え、次世代を担う多くの女子学生に工学分野への関心を高めていただくことを目的として、常時公開しています。今後も工学の幅広い可能性を伝えるため、継続してコンテンツの充実を図っていきます。



動画コンテンツ

研究室紹介

▶ 機械工学分野



触覚を共有!?

人により感じ方の違う触覚研究は様々な分野で役立つ可能性が無限大!

▶ 知能情報分野



AI技術とロボット

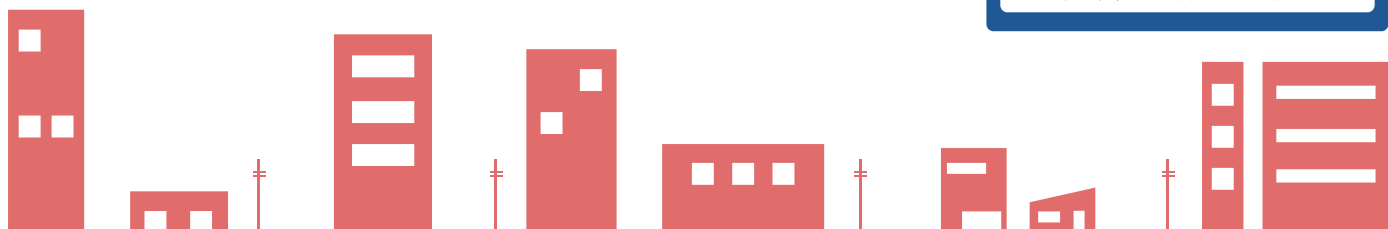
感情豊かなロボットの開発が高齢者支援に役立つ!

現役女子学生の視点

▶ 建築・デザイン分野



建築女子の目線・考え・新しい価値観が建築の未来・形を変えていく可能性も!

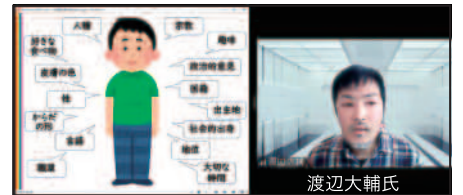


TOPIC 2 女性研究者メンター制度 第5回メンター研修・第7回FD研究会 「性の多様性をめぐる大学の課題—研究・教育・生活の場としての安全を保障するために—」

2022年3月11日、女性研究者メンター制度 第5回メンター研修を工学教育総合センター第7回FD研究会と共同でオンライン開催しました。埼玉大学 基盤教育研究センター 准教授 渡辺大輔氏を講師にお迎えし、「性の多様性をめぐる大学の課題—研究・教育・生活の場としての安全を保障するために—」と題してご講演いただきました。

講演では、性の多様性に関する基礎的な説明と性的マイノリティへの支援や配慮方法、大学での取り組みについてお話しいただきました。また、性に関する様々なバイアスがある中で社会がつくられ、性的マイノリティへの配慮や支援を必要と「させている」こと、性的マイノリティは特殊な存在ではなく、自分自身もさまざまなセクシュアリティのうちの一人であり、みんなの問題として性の多様性を前提に社会システム全体をつくり直すことが必要だと気づく機会となりました。

講演後のアンケートでは、参加者の高い満足度が示され、「かなり勉強になり、漠然としていた部分がクリアになりました。自分の発言がこれまでバイアスがかかっていたのではないかと不安になることもあったが、意識を高めていきたい」、「自分では理解しているつもりでも、まだ知らないことがあり、配慮が足りないかもしれないことに気づいた」などの感想が寄せられました。

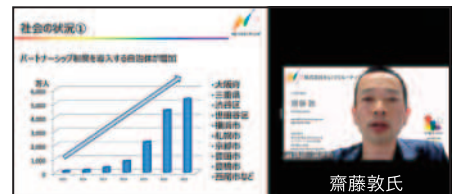


TOPIC 3 職員研修 「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」

2022年3月14日、職員研修「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」をオンライン開催しました。LGBTQ当事者の就職転職支援を行う、株式会社Nijiリクルーティング 代表取締役社長 齋藤敦氏を講師にお迎えし、性自認、性的指向(SOGI)の基礎を理解し、当事者の声を聞く機会としました。

講演は、理解しているつもりでも誤解があるSOGI、LGBTQに関わる用語等についてのクイズから始まり、答え合わせをする形で、私たちが正確に知っておくべき基本事項が説明されました。

講演の中盤には、民間企業に勤務するXジェンダー(性別を定めない)当事者の方が登壇し、男性として就職活動を始めてから、入社後に職場でカミングアウトして、自分らしく勤務する現在までの流れを詳しくお話しされました。学生時代に最初に参加した大学での就職説明会で、男女二つの性を前提に性別を分けて説明された違和感から、その後は大学の就職支援を利用しなくなったこと、就職後、配属先での周囲の反応と自分らしさとの間で揺れて、カミングアウトを決意するまでの心情を丁寧に説明いただきました。参加者は、研修を通して、誰にとっても安心で安全な職場づくりを考えていくために重要な視点を獲得することができました。

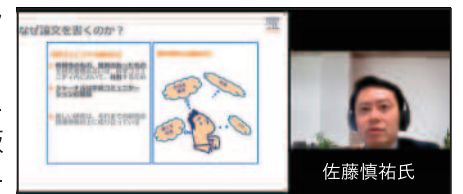


TOPIC 4 NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第2回研究力向上セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」

2022年3月16日、女性研究リーダー養成塾 第2回研究力向上セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」をオンライン開催しました。

最初に、エルゼビア・ジャパン株式会社 佐藤慎祐氏に「出版社の立場から」と題してご講演いただきました。英語論文の投稿から出版までの一連の流れや、出版倫理、査読者と編集者の視点の違い、科学英語論文の基本的な作法についてツールや例を示しながらお話しされました。

続いて、電気・機械工学専攻 機械工学分野 玉野真司教授に「経験を踏まえたアドバイス」をお話しいただきました。投稿先を選ぶ視点や、査読者からの質問への回答時に気をつけることを、ご自身の事例を挙げながら説明されました。英語のネイティブではないハンデを克服する方法や、論文の質を高めるため、図や数式の一つ一つを妥協せず磨くことの重要性など、分野を問わず今日から実践できるポイントを示していただき、参加者の執筆意欲を大いに喚起するセミナーとなりました。



TOPIC 5 NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 「知りたい！大学院進学後の学びとキャリア」

2022年2月25日、工学女子キャリア形成塾「知りたい！大学院進学後の学びとキャリア」をオンライン開催しました。

最初に、生命応用化学専攻 D3 富田紗穂子氏より、『「研究職」へのあこがれと医薬品研究職内定までの道のり』と題してお話しいただきました。早い時期から抱いていた研究職への憧れを、部活や研究室の先輩とのコミュニケーションの中でさらに強めて、研究室選択や大学院進学を決意した過程や、博士後期課程に進むと決めた時に抱きがちな不安をどのように解消していったかを時系列で説明されました。

また、学部生にとっては、想像しにくい研究職の就職活動について、自身が対象となる年の前年度からセミナーに参加して情報収集に努めたことや、実際に利用した博士号取得者のための就職支援事業の内容など、時期や活動内容を詳しく示しながらお話しされました。

後半は、株式会社デンソー AD&ADAS 技術2部 第1技術室 技術1課 担当課長の坂本麻衣氏（電気情報工学専攻 知能情報システム分野 OG）を講師にお迎えし、「女性技術者としての歩みとキャリアデザインのヒント」についてお話しいただきました。

坂本氏は、好きなことを学び、仕事にしていくために、数々の選択を一つ一つ自分に正直に大切に行ってきたこと、また、失敗した時にも、その受け止め方、その後の対応の仕方でも道を開いていけることを、経験に基づいてわかりやすく受講生に伝えられました。また、男性の多い製造業の職場で技術者として働くことについて、生活もキャリアも充実させていくために必要な企業選びの視点や、職場でのリーダーシップの捉え直しなど、ご自身が仕事をする上で気をつけてきたことをお話しされました。

15名の学生が受講し、目標に向かってまっすぐ進み活躍する二人の先輩から大きな刺激を受けました。



富田紗穂子氏



坂本麻衣氏

TOPIC 6 『共に創る未来へII ～女子学生・女性研究者からのメッセージ～』 発行

2022年3月、女子中高生、名古屋工業大学の新入生に向けて名古屋工業大学のキャンパスライフ、学科での学びや卒業後のキャリアについて紹介するロールモデル集『共に創る未来へII～名古屋工業大学女子学生・女性研究者からのメッセージ～』を発行しました。

工学研究が人々の幸せの創出を視野に入れた「革新」を目指すものへと広がりを見せる中、柔軟で多様な物作りを実現する女性の活躍が期待されています。本誌は、工学分野の女子学生の学生生活や研究、卒業後のOGの活躍を紹介し、工学系大学・大学院への進学のための選択を支援するために発行しました。

各学科、課程の学生と、技術者・研究者として活躍するOGのインタビューを掲載し、次世代を担う多くの女子生徒・学生が工学分野の学びと研究の魅力を知り、充実した未来を思い描けるような内容になっています。

学生生活課⑩番窓口のカウンター、ダイバーシティ推進センターで配布しています。高校での説明会や出前授業の際には、必要部数をご用意いたしますので、ぜひご利用ください。



REPORT



「女性が拓く工学の未来賞」
優秀賞受賞の女性研究者に

Interview

アヤル アヤド フセイン アル ズバイディ
Ayar Ayad Hussein Al Zubaidi 研究員

イラク・バグダッド出身。

イラクの工業大学大学院修士課程を修了後、イラク政府機関勤務を経て、2010年、文部科学省国費外国人留学生として名古屋工業大学に入学。2014年に博士学位取得後、中国での企業勤務を経て、再び日本へ。現在は、生命・応用化学専攻 川崎研究室の研究員として、再生可能エネルギーデバイスや、二酸化炭素、環境汚染物質の回収の研究に取り組んでいる。



イラクの女子教育

イラクは長期に渡って戦争をしてきて、男性が兵隊に行くので、国を管理するため女性の社会進出が求められました。ですから、女性の研究者とか、先生とか、上司がいるのは当たり前のことでした。想像しにくいかも知れませんが、日本よりイラクのほうが、工学系の大学に女性が多いんです。

アラブの社会では、女性が経済力を持つことが重視されてきました。自分の娘や息子が、大人になって自立して生きていけるようにすることが親の大事な役目です。女の子を育てるなら、夫から自立させたいと考えます。男性の命令に従わなくてよいように、自由や力を対等に持てるように。

でも、戦争直後(2003年頃)のイラクでは、宗教や教育に対する考えが大きく変わってしまった時期がありました。急に、信心深い=教育しない、法律を守らない、と考えるよう余儀なくされました。こうした考えが、宗教と社会の破壊につながりました。しかし、民衆の強い抵抗により、現在は元の価値観が取り戻されつつあります。

エネルギーデバイスの研究を志して日本へ

私自身は、勉強好きで教育を大事にしていた祖父の影響を強く受けて、天文学や化学が好きで、好奇心旺盛な子どもでした。10歳の頃、テレビでオゾン層破壊の問題を見て、子どもながらに「私たちが何とかしないといけない。」と思いました。そこで、周りの大人に「ヘアスプレーはやめてください。環境によくない。」と、お願いして回ったんです。そんな子どもだったから、今、日本まで来ていろいろ挑戦できているんだと思います。

イラクの大学で化学工学の修士課程を修了後、これからの社会に役立つのは持続可能なエネルギーの研究だと思い、材料研究の盛んな日本に留学を決めました。考えてみると、当時はどこに向かってもハードルでした。言葉も話せない国で、他の学生より年上で、博士後期課程に入って、全く新しい分野の研究です。

論文を読むときに、一言も分からなかった時もありました。一つの言葉で止まって、検索して、その言葉に関する別の論文を読んで、また、元の論文に戻ります。一本の論文を読むのに1週間以上かかる時もありましたけど、この繰り返しで、だんだんと知識を身に付けていきました。

環境への思い

持続不可能なエネルギーが、戦争のもとになっていることを、私はイラク人ですから、よく知っています。そして最も重大な問題は環境を破壊することです。だから、私の研究の一番の目的は、環境被害を取り除いていくことなんです。

エネルギーデバイスの研究をしながら、新しい研究テーマも考えています。ナノ材料を使って、または、物理吸着して、人体に悪影響のある環境ホルモンを理想的に分解できたら、と。また新しい分野への挑戦で、失敗するかもしれないけれど、やってみたい。私は今も、心の中ではスプレー缶にこだわる子どもの頃のままなのです。

挑戦は、ただの挑戦ではなくて、そのハードルから学ぶことが、きっとあります。これからも、乗り越えたら何か身に付くと考える人間であり、研究者でいたいです。

発行

2022年3月発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL | 052-735-5121, 052-735-5279

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」

E-MAIL | diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL | <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>